



5月園だより

令和5年5月1日

目黒区立目黒本町保育園園長

青空の下を泳いでいるこいのぼりを見て制作した3歳児クラスの子どもたちの個性豊かなこいのぼりが廊下に並んでいます。4、5歳児クラスの作品と並んだ自分のこいのぼりを見上げて指差しながら「こいのぼりつくったの、みて」と言う表情から幼児クラスの一員になったという喜びを感じます。

先日4、5歳児クラスが遠足で砧公園に行ってきました。4歳児は大型バスでお弁当持参の遠足は初めてなので遠足前からお弁当が何よりの楽しみなようで、毎日ままごとで友達とお出掛けごっこをしながらおしゃべりの話題はお弁当のメニューでした。5歳児クラスは公園で虫を探そうと計画すると、どんな虫がいるか図鑑で調べたり虫を入れるバックを用意したりしていました。公園でどうやって遊ぶかということにイメージを膨らませ用意万全でした。当日は朝バスに乗った途端に「お腹すいた」と4歳児の子どもたち、公園に着くなり虫あみ片手に走り出した5歳児の子どもたちと遠足への期待がそれぞれの姿に表れていて微笑ましかったです。子どもたちの期待や願いに寄り添った活動を展開し、子ども、保護者、職員と一緒にわくわくしながら喜び合えるような保育を目指していきます。



懇談会日程

- 3歳児(こぐま組)
- 4歳児(ぞう組)
- 1歳児(りす組)
- 2歳児(うさぎ組)
- 0歳児(ひよこ組)

行事予定

ポニー教室	5歳児
中旬 身体計測 避難訓練	全園児 全園児

子どもたちの様子

園生活に少しずつ慣れ、保育士や友達と楽しんでいる様子をご紹介します

らいおん組(5歳児クラス) 昼寝のあとのコット片付けをしていると、こぐま組のコットの方から泣き声が聞こえ、なかなか目覚められない子がいました。「あらら、こぐまさんが泣いている」「大丈夫かな、お部屋まで行けるかな」と保育士が子どもたちとコットを片付けながら心配そうに言うと「まだ眠いんじゃないの」と自分のコットを片付け終えて座っていた子がふと立ちあがり「ほら、おいで」としゃがんで手を握り一緒にこぐま組の保育室まで連れて行ってくれました。その様子を見ていた子も「しょうがないな、私も行ってくる」と立ち上がってなかなか起き上がれない子に声をかけ、手を差し出してくれます。「ありがとう」と周りの職員から言われると少しはにかんだ表情をして照れている子どもたちでした。異年齢との関わりの中で自分たちが優しくしてもらった経験や、小さい子との関わりを通して自分なりに行動し、頼りにされる喜びを感じています。

ひよこ組(0歳児クラス)

保育士の膝に座って手作り玩具の水時計を見せると、じっと水が落ちている様子を見ています。「きれいね」「こぼこぼ」と水が落ちる様子を言葉にして伝えると保育士の顔を振り返って確認しています。「お水無くなっちゃったね、もう一回ね」と伝え水時計を逆さにすると身を乗り出すようにしながら、水の動きに釘付けになっています。また、歌に合わせて重ねコップを打ち鳴らして見せると、コップに手を伸ばして、保育士の歌に合わせて体を揺らしながら打ち鳴らしています。歌が終わると“もっと歌って”という表情で保育士の顔を見ています。再び歌うと笑顔になり、コップを打ち鳴らしています。保育士との関わりを通して日ごと笑顔も増え、時には声を上げて笑う姿も見られるようになりました。

こぐま組(3歳児クラス)

進級し幼児3クラスで散歩に行くようになりました。「ドロケイしよう」と声を掛け合い、4、5歳児クラスがドロケイを始めました。楽しそうに遊んでいる年上の子の遊びを見てこぐま組も一緒に走り回ります。追いかけられると「キャー」といいながら嬉しそうに逃げたり「タッチされたから帽子黄色にしなくちゃ」と帽子をひっくり返して再び走りだしたりとドロケイのルールはわからないけれども同じ空間を楽しんでいます。別の日の園庭では築山でマットを敷いて滑り台が始まりました。5歳児クラスの子が築山の頂上で手を伸ばしながら「カンカン。はい順番待ってください」と声を掛けてくれます。普段は「一番がいい」という子どもたちですが、年上の子に声を掛けてもらえ一緒に遊ぶことが嬉しくて順番を待つことが出来ました。お姉さんお兄さんたちと散歩先や園庭でたくさん関わり遊ぶことが増え、憧れの気持ちが芽生えてきていま

りす組(1歳児クラス)

鉄棒にぶら下がりながら遊んでいるところに、友達もやってきました。やりたい気持ちはあるものの、一歩踏み出せずにいます。「先生もやってみようかな」と保育士がぶら下がってみるとその様子を見て鉄棒に手を伸ばしています。「みてて」というように保育士に視線を送りながら足を浮かせてぶら下がっています。安心できる保育士と一緒に過ごす中で様々な物に興味が出てきて活動範囲も広がってきます。子どもの興味に寄り添いながら楽しんでいきたいと思います。



うさぎ組(2歳児クラス)

園庭に出ると「先生追いかけて」と言いながら築山へまっしぐら。「まてまて、捕まえちゃうぞ」と追いかけて行くと、声をあげながら走っていきます。築山に登り、保育士がどこにいるかを確認するかのようになりを見渡し、からだの向きを変え今度は砂場の方へ勢よく走っていきます。その姿に保育士が両手を広げながら近づいていき「つかまえた」と抱きしめると嬉しそうにからだを預けてきます。捕まりたくないけど、捕まえてほしい。子どもたちの“もっともっと”に応えながら、からだもこころも満足するまで楽しんでいきます。

ぞう組(4歳児クラス)

椅子に座り、上半身を左右に動かして「ジェットコースターだよ」と遊んでいた友達を見て「おばけも出てくるよ」「みんなで乗れる大きいジェットコースターがいいよ」と次々に子どもたちが集まり、ぞう組の“ジェットコースターお化け屋敷”作りが始まりました。お客さん役の子は布をシートベルトにした座席用の椅子を並べ、おばけ役の子はスカートや布を身に着け、雪女や狼男など好きなおばけをイメージした絵を描きお面のようにして顔の前に持っていきます。準備が終わり、保育士と案内役の子の「出発です」の声を合図に、棚の陰に隠れたおばけが「おばけだぞー」と出てくると、お客さん役の子たちは隣に座る友達と体を寄せ合って「こわいー」と言いながらもみんな笑顔で楽しんでいきます。友達とイメージを共有しあい、やりとりを楽しみながら遊んでいます。